

# 常照

第772号

## 善人の危うさ

NHKテレビで「100分de名著  
(ひゃっぶんでめいちよ)」という番組を  
放映していました。一回二十五分、計  
四回で百分、名著と言われる本を紹介  
する番組であります。

ある日の名著は「歎異抄」<sup>たんにしやう</sup>でありま  
した。歎異抄は親鸞聖人のお弟子<sup>でし</sup>、唯  
円房が、聖人亡きあと聖人の教えと異  
なることを言う門弟<sup>もんてい</sup>が出てきたため、

自分が聞いた聖人の教えを書き残され  
た書といわれています。

この書は「同じ教えを受けた人以外  
に見せてはならない」という意味の言  
葉が最後に添え<sup>そ</sup>られてあることから、  
元は同門の信者にあてて書かれたもの  
であります。今では多くの哲学者、  
作家等の方々に高く評価され、キリス  
ト教の聖書に次いで世界で二番目に有  
名な宗教書と言われる、まさに名著で  
あります。

番組は司会の女性アナウンサーと  
タレントの伊集院光さんを聞き手に、  
宗教学者で本願寺派僧侶の釈徹宗先生  
が解説するという構成で進められまし  
た。私はどんな展開になるのか楽しみ

でテキストを買ってきて見ることにしました。

番組が進むとはじめて歎異抄を目にする聞き手の二人は、一般的な仏教理解とは大きく違う内容と逆説的な表現に驚いておられました。

放送二回目の第三条「悪人正機」のところ、伊集院光さんはどうにも納得がいけないという表情で「誤解する気満々」と言っておられました。

親鸞聖人「悪人正機」といわれるほどに有名な言葉ですが、その正確な意味は意外と理解されていないのではないのでしょうか。

第三条は「善人でさえも浄土に往生することができるのだから、まして悪

人はいうまでもないことである』という意味の言葉で始まります。これはやはり、一般の常識とは逆ですね。

そして『しかし、世の人々は悪人でさえも往生するのだから、善人ならばなおさらのことだ』と続きます。これなら私たちの考えに合いますから、うなづくことができます。

さらに『これは一応もつともなことのようにだが阿弥陀仏の本願他力のおこころに反している』という言葉が出てきます。

一体どういうことなのでしょう。

司会の女性アナが「ここに出てくる善人・悪人は私たちの思っているのは違うんですね」と聞くと、釈先生は

「仏教でいう善人とは自分で修行をして煩惱ぼんのうを消し去って悟りきとを開ける人。悪人はそれができない人」と答えます。

続けて伊集院さんが「おちこぼれをすくうための教えということですか」と尋ねると先生は「泳げない人のための船」とたとえて答えます。そして「自分の内面をよく見たら、とても自分の力で煩惱を消し去ることなどできないと気付く。その意味でほとんどの人は悪人である。悪人の自覚が大事」とも言われました。

『善人は自分の力で何とかなると思っているから、本願を信じる心が欠けている。だから阿弥陀仏の本願になっていない。しかし、自力の心をひ

るがえし他力・阿弥陀仏の本願のはたらきを素直に受け入れるならば必ず浄土に往生することができる。

阿弥陀仏は煩惱を消し去ることできない悪人のために本願をたて、救いとうと誓われた。その本願を疑いなく信じ、受け入れる悪人こそが本当の目当て・正機である。だから、本当の目当てではない善人が往生できるのだから、本当の目当てである悪人が往生できるのはいうまでもない』という言葉で第三条は終わっていきます。

伊集院さんはネットの上の「炎上」を取り上げ「自分は正しいと思っていると間違った相手を排除しようという暴力性・攻撃性が出る」と正義の危う

さを指摘されました。

応じるように「善人は自分でやっていけると思っている危うさがある」、

「正しさの暴走」といわれた釈先生の言葉が印象的でありました。

考えさせられることであります。

「弥陀の本願には、老少・善悪のひとをえらばれず、ただ信心を要とすとしるべし。そのゆゑは、罪悪深重・煩惱熾盛の衆生をたすけんがための願にまします。」

【現代語訳】

「阿弥陀仏の本願は老いも若きも善人も悪人もわけへだてなさいません。ただ、その本願を聞きひらく信心がかなめであると心得なければなりません。なぜならば、深く重い罪を持ち、激しい煩惱をかかえて生きるものを救おうとしておこされた願いだからです。」

(歎異抄第一条より)

五月の常例布教(法話)のご案内

○前期 五月七日(月)～十一日(金)

講師

四洲教区宇和島組圓立寺  
足利礼子師

○後期 五月十三日(日)～十六日(水)

講師

北海道教区空知南組報恩寺  
辰田真弥師

○場所 小樽別院内

○時間 午後二時(法要終了後)～午後三時半

浄土真宗のみ教えについて布教使にご法話をして頂きます。どうぞお誘い合わせいただき、ご聴聞に来院くださいますよう、お待ちしております。

発行所

☎047-0017

小樽市若松一丁目四番十七号  
本願寺小樽別院

電話 (011-3) 44-2211  
FAX (011-3) 44-2211  
テレホン法話 二九一四〇八〇番  
二七一一六一六番